# 品川支部

平成29年3月1日発行
〒 141-0022
品川区東五反田1-8-5
℡　3442-7075

3月

天理教品川支部（豊英分教会内）　発行責任者　栗原薫　編集　支部編集部


# 三年後の東京教務支庁 設立百十周年記念祭典 要領発表

教務支庁は、従来明治四十四年四月四日の市庁舎設立の日を設立の起源として周年行事を行ってきたが、明治四十三年八月六日に本部での教区設置打ち出しが、行われたことからこの時を起源と改める事となりました。

記念行事は染井の地がソメイヨシノの発祥地であることから桜の季節であり今まで親しんで来た四月四日をそのまま残すとの事で、百周年から九年目である立教百八十三年四月四日を百十周年記念祭典日とし真柱様、大亮様をお迎えして執り行うことが決定された。 この三年間に神殿瓦屋根の葺き替え等、費用の一部を管内の教会から支部を通して、お供えで賄いたいとの事でありました。

尚、本年の四月四日は通常通りの祭典で、品川支部は模擬店で焼きそばを担当致します。

東京 教務支庁神殿



## ☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会
三月九日（木）午後六時～（都南にて）

・教区ひのきしん（三月五日（日）十七日（金）
当番は櫻京組です宜しくお願いします

・神名流し
三月一日（水）午前十時～
場所　大井西口ロータリー

・在宅センターひのきしん
三月三十一日（金）午前九時半～

・青年会活動
毎日実働を掲げ当支部は十一日が活動日として行っています。参加の程お願い致します

・支部例会三月三十日（二頁参照）

## ☆教務支庁からのお知らせ

・基礎講座
三月十二日（日）

・陽気ぐらし講座
陽気暮らし講座が一新されます
三月から講師の先生も一部変わられ、特に一般の方にもわかりやすい講座にするために天理教の独自の用語をなるべく使わず、どなたでも来て頂けるように作新されたとの事です。品川支部では六月以降に予定を組むことにしておりますので宜しくお願い致します

## 例会だより

一月は例年通り、本荏大教会でのおつとめでしたが、この品川支部報をご覧になった、お近くの方数名がお勤めに参加して頂きました。

所属教会が遠くなかなか教会に足を運ぶことが出来ない方が品川近辺は急増しているとの事、時間的には十一時からおつとめ、連絡、会長さんのお話で約一時間、その後昼食の弁当で歓談して終了となりますので、初めての方も是非お立ち寄り頂きますようお誘い申し上げます。

## 婦人会だより

一月三十一日の在宅ひのきしん終了後、婦人会ではファミレスで初例会を行った。昨年の活動を振り返り、今年の活動の相談を食事をしながらの行いましたが、その他にも子育ての事、家の事など楽しく歓談できたとの事でした。今後、代替わりされ、支部活動の参加機会が少なくなった奥様方にもお願いし、支部活動の活性化を図りたく思います

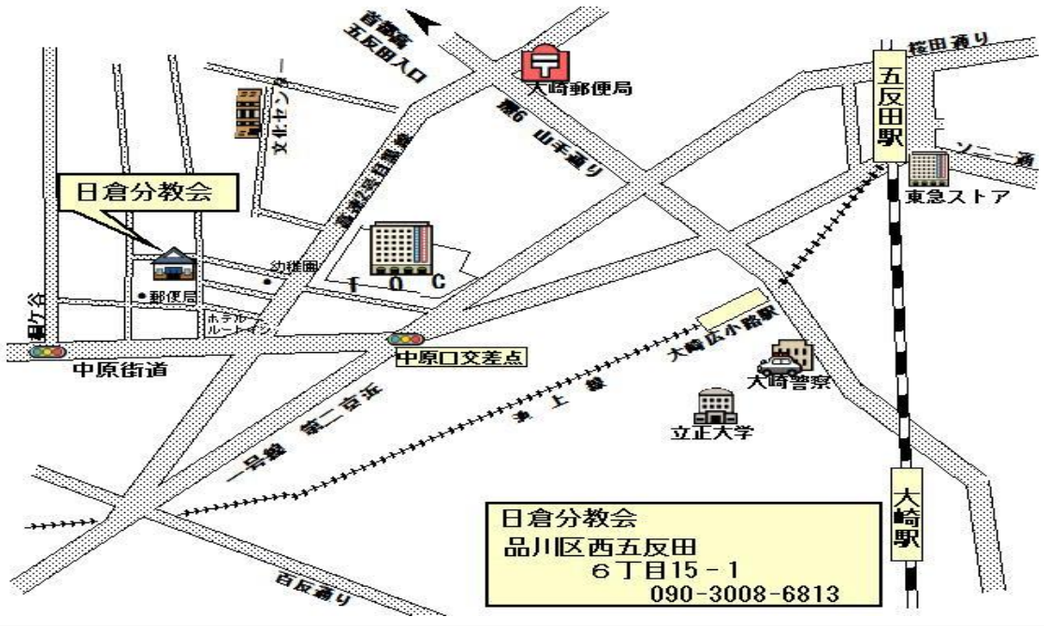
## 時報手配り三月予定

| 拠点教会 | 5日号 | 12日号 | 19日号 | 26日号 |
|---|---|---|---|---|
| 日本橋 | 手配り | 手配り | 手配り | 直　送 |
| 本　荏 | 手配り | 手配り | 手配り | 直　送 |
| 都　南 | 手配り | 手配り | 手配り | 直　送 |
| 三ツ木 | 手配り | 手配り | 手配り | 直　送 |
| 水豊田 | 手配り | 手配り | 手配り | 直　送 |

# 品川支部例会

## 平成29年3月30日（木）
## 11時開始
## 場所　日倉分教会
（品川区西五反田六丁目十五の一）

**内容　座りづとめ よろづよ八首 3下目**
**東京教区、支部連絡事項**
**当該斎藤教会長挨拶**
**昼食の用意頂いてます**
**＊各教会の方のほかどなたでも（白足袋ハッピ着用）**






## 教会紹介

### 水豊田分教会元一日

当教会は初代会長石田豊、二代会長はま夫妻の布教のもと、昭和二十九年三月、大井町の地に教会設立のお許しを頂きました。私の祖父である初代会長石田寛は大正十三年、東京芝浦電気に入社。数年後、大阪支店に転勤となり二代会長である石田はまと二人で大阪に新居を構えました。間もなくはまは妊娠し、生まれくる我が子を楽しみにしていたそうですが、お産が上手くいかずその子は生まれて五日目に息を引き取りました。その間、細い声で泣き続け、母乳を与えても喉を越さなかったそうです。ただでさえお産は大変なのに、その結果が儚かっただけにはまは悲しみ心身ともに疲れ、日が経つと回復するどころか、かえって衰弱がひどくなり、ついには終日寝たきりになってしまいました。

医者や色々な宗門を訪ねるも回復せず、「私はこのまま死ぬのかしら…」と思う毎日であった時に、玄関の戸が開いて「私は天理教の者ですが、こちらさんに病人さんがおられると聞いて伺いました。どうかと女の話を聞いて下さい」と言う性の人の声がした。見ると眼鏡をかけた足の不自由なご婦人であった。あまりにも突然の訪問であったが、はまは何か心に引かれるものを感じ話を聞いてみると、かしもの・かりものの話と十全の守護の話という今までに聞いたことのない不思議な話であった。次の日からこのご婦人は毎日自宅を訪れておさづけの理を取り次いで、はまの回復を真剣に祈ってくれた。はま自身もこのお道の話にいわれの引きない魅力を感じ次第に込まれていった。お道の話を聞くうちに『たすかりたい、たすかりたいと思う心では申し訳ない。今日までどれだけ天恩を受け、大勢の人の恩を受けてきたことだろう。

これからは命ある限り親神に、そしてこの世に御恩報じをさせていただこう。』と思うようになったそうであります。

すると、不思議にもこの時を境にしてはまの身体は回復へと向かいだした。日一日と気分が良くなっていくのが嬉しく、心は自然と勇んでいきました。それからは近くの教会へ日参し、ひのきしんに励み、やがてはまは主人の了解を得て天理教別科（現修養科）へ入科することになる。

昭和十二年で大阪から東京本社に転勤になると、はまの持ち前の性分から「こう言ってあげたら、あの人もたすかる、この人もたすかる」と言っては、知らず知らずのうちに布教師の道へと歩んでいった。昭和二十五年十二月、焼け野原の大井町に集談所らしき建物が出来上がるころ、はまは主人である寛に対し「お願いがあります。修養科へ入って下さい。」と言い出した。当時はまだ会社に勤めており、返事を渋っていると「後のことは私が何とかしますから、お願いします」というはまの真実に押されるように翌昭和二十六年一月に寛は修養科に入科。その間に、はまは大森馬込の自宅を寛の了解なく売却し、夫婦そろって道専務となる心定めをする。修養科を終了し帰宅した寛も事の由を聞き思案した結果、会社を退職して道一条に切り替え、親神様にお使いいただく一ようぼくとして歩む決意をした。前途の見通しもなく暗がりの中を、神の声と理の親の声を頼りとして無我夢中の布教生活であったが、そのたすけ一条の真剣な夫婦の姿に、いつしか心を惹かれて寄り集う人々も多くなり、昭和二十九年三月二十六日、喜びと感激のうちに水豊田分教会設立のお許しを頂きました。

この大井町の地に教会設立をお許し頂いてから今年で六十三年を迎えます。これから先もおぢばの出張り場所としてたすけの道場としてその役目を果たしていきたいと思っております。